

サージ抑制ユニット

SSU 50TA-NSA : *50m 仕様*

SSU 100TA-NSA : *100m 仕様*

 注意

当社サージ抑制ユニットをお買い上げいただきありがとうございます。

- この製品は、インバータ駆動システムにおけるサージ電圧を抑制しモータの絶縁破壊を防ぐことができます。ご使用前には、この取扱説明書をお読みになって取扱い方を理解し、正しくご使用ください。
- 間違った取扱いは、正常な運転を妨げ、寿命の低下や故障の原因になります。
- この取扱説明書は、実際に使用される最終需要家に確実にお届けください。
- この取扱説明書は、ユニットが破棄されるまで大切に保管してください。
- この取扱説明書にはインバータなどの取扱い方は記載されていないので、それぞれの取扱説明書を参照してください。

この取扱説明書の著作権は、沖電線株式会社にあります。
本書に掲載されている会社名や製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。
仕様は予告無く変更することがあります。

まえがき

当社サージ抑制ユニットをお買上げいただき誠にありがとうございます。この製品は、インバータ駆動システムにおけるサージ電圧を抑制しモータの絶縁破壊を防ぐことができます。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。間違った取扱いには、正常な運転を妨げ、寿命の低下や故障の原因になります。

■ 安全上のご注意

据付け、配線（接続）、運転、保守点検の前に必ずこの取扱説明書を熟読し、製品を正しく使用してください。更に、機器の知識、安全に関する情報および注意事項のすべてについても十分に習熟してください。

この取扱説明書では、安全注意事項のランクは下記のとおり区別されています。

 危険	取扱いを誤った場合に危険な状況が起こる可能性があり、死亡または重傷を負う事故の発生が想定される場合
 注意	取扱いを誤った場合に危険な状況が起こる可能性があり、中程度の傷害や軽傷を受ける事故または物的損害の発生が想定される場合

なお、注意に記載した事項の範囲内でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

用途について

 危険
・この製品は、インバータ駆動システムにおけるサージ電圧を抑制する目的以外で使用しないでください。 ・生命維持装置などの人体事故に直接関係する用途には、そのまま使用できません。 ・製品は厳重な品質管理のもとに製造していますが、万一の故障により重大な事故または損失の発生が予測される設備への適用に際しては、安全装置を設置してください。 事故のおそれあり

据付けについて

 危険
・金属などの不燃物に据え付けてください。 ・可燃物の近くに据え付けないでください。 火災のおそれあり

⚠ 注意

- ・ 運搬時は端子カバーを持たないでください。
落下してけがのおそれあり
- ・ 糸くず，紙，木くず，ほこり，金属くずなどの異物がユニット内に侵入したり通風孔部分へ付着するのを防止してください。
火災，事故のおそれあり
- ・ 外部あるいは内部部品が損傷しているユニットを据付けまたは運転しないでください。
火災，事故，けがのおそれあり
- ・ 梱包箱の上に乗らないでください。
- ・ 多段積みする場合は，梱包箱に表示された段数以下にしてください。
けがのおそれあり

配線について

⚠ 危険

- ・ 必ずユニット付属の入力ケーブルを使ってください。入力ケーブルの末端には，圧着端子（ねじサイズ M5）が付いています。モータ端子のねじサイズと適合しない場合は，別途中継端子台などを準備して接続してください。この場合のモータ端子台と中継端子台間の中継線はできるだけ短く配線してください。ユニットからモータまでの配線距離が長い場合，サージ電圧が 1000V を超える場合があります。
なお，接続および配線作業時は，必ずインバータの電源を遮断し 30kW 以下は 5 分以上，37kW 以上は 10 分以上経過後，インバータのタッチパネルが消灯していることを確認し，テスターなどを使用しインバータの主回路端子 P(+)-N(-)間の直流中間回路電圧が安全な電圧（DC25V 以下）に下がっていることを確認してから行ってください。
感電のおそれあり
- ・ ユニットの接続するモータの定格電圧系列に従い C 種または D 種の接地工事を行ってください。
感電，火災のおそれあり
- ・ ユニットの接地用端子（FG）の接地線は必ず接地してください。
感電，火災のおそれあり
- ・ 配線作業は，資格のある専門家が行ってください。
感電のおそれあり
- ・ 必ずユニットを設置してから配線してください。
感電，けがのおそれあり
- ・ ユニットの入力電源の相数・定格電圧と接続するモータの定格電圧・相数が一致していることを確認してください。
- ・ ユニットの出力端子（ ， ， ）は使用しませんので，何も接続しないでください。
感電，火災のおそれあり

運転操作について

⚠ 危険

- ・必ずユニットの端子カバーを取り付けてから電源を投入してください。なお、通電中は端子カバーを外さないでください。
- ・濡れた手で操作しないでください。

感電のおそれあり

- ・インバータに通電中は、停止中でもユニットの端子に触れないでください。

感電のおそれあり

⚠ 注意

- ・ユニット本体は高温となります。触れないでください。

やけどのおそれあり

保守点検、部品の交換について

⚠ 危険

- ・点検はインバータの電源を遮断して 30kW 以下は 5 分以上、37kW 以上は 10 分以上経過後、インバータのタッチパネルが消灯していることを確認し、テスターなどを使用しインバータの主回路端子 P(+)-N(-)間の直流中間回路電圧が安全な電圧(DC25V 以下)に下がっていることを確認してから行ってください。

感電のおそれあり

- ・指定された人以外は、保守点検、部品交換をしないでください。
- ・作業前に金属物、(時計、指輪など)を外してください。
- ・絶縁対策工具を使用してください。

感電、けがのおそれあり

廃棄について

⚠ 注意

- ・ユニットを廃棄する場合は、産業廃棄物として扱ってください。

けがのおそれあり

その他

⚠ 危険

- ・改造は絶対しないでください。

感電、けがのおそれあり

一般的注意

この取扱説明書に掲載されている全ての図解は、細部を説明するためにカバーまたは安全のための遮蔽物を取り外した状態で描かれている場合があります。製品を運転する時は必ず規定どりのカバーや遮蔽物を元に戻し、取扱説明書の記載に従って運転してください。

■ 使用上のご注意

周囲環境	設置場所	「許容周囲温度(-20 ~ +40)」の範囲で使用してください。 ユニット本体は運転条件により、高温になる場合がありますので、不燃性材料(金属など)に据え付けてください。 その他、第2章「2.1 使用環境」を満足する場所に設置してください。
周辺機器の接続	メガーテスト	ユニット本体のメガーテストを行う場合は、DC500Vメガーを使用し、第5章「5.3 絶縁試験」に記載の手順に従って実施してください。
配線	ユニットとモータ間の配線距離	ユニットからモータまでの配線距離が長い場合、サージ電圧が1000Vを超える場合があります。配線を延長する場合は、できるだけ短くしてください。
	接地配線	ユニットは接地端子を使って、確実に接地を行ってください。
輸送・保管	ユニットの輸送や保管に際しては、第1章「1.2 運搬」および「1.3 保管」に示す方法と場所を選定してください。	

本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

第1章 ご使用の前に

開梱時に行う点検や製品の運搬および保管の注意事項について説明します。

第2章 据付けと配線

使用環境、据付け上の注意事項およびモータへの配線手順について説明します。

第3章 運転

モータの試運転を始める前に確認すべき事項および運転について説明します。

第4章 故障かな?と思ったら...

ユニットのトラブルシューティングについて説明します。現象、原因およびそのチェックと対策について説明します。

第5章 保守点検

ユニットを安全に使用するのに必要な点検、測定、試験について説明します。また、製品保証などについても記載しています。

第6章 仕様

各種仕様、外形寸法図について記載しています。

アイコンについて

本書では以下のアイコンを使用しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、ユニットが本来持つ性能を発揮できなかったり、その操作が事故につながるようになります。

第1章 ご使用の前に

1.1 現品の確認

開梱し次の項目を確認してください。

(1) ユニット本体および以下の付属品が入っていることを確認してください。

付属品 : 取扱説明書 (本書)

(2) 現品の破損・凹みおよび部品の脱落など輸送中の損傷がないことを確認してください。

(3) 本体には定格銘板が貼られています。定格銘板で、ご注文通りの製品であることを確認してください。

OKI	
TYPE	SSU 50TA-NSA
SOURCE	3PH 0-480V 0.1-400Hz CARRIER FREQ. 0.75-15kHz
SER.No.	*****
OKI Electric Cable Made in Japan	

図 1.1 定格銘板

TYPE : ユニット形式
SSU 50TA-NSA : 配線長 50m 仕様
SSU 100TA-NSA : 配線長 100m 仕様
SOURCE : 3PH 0-480V 0.1-400Hz
CARRIER FREQ. 0.75-15kHz
SER.No. : 製造番号

製品にご不審な点や不具合などがありましたら、お買上げ店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

1.2 運搬

- ・製品は必ず本体底部の左右を両手で支えてください。端子カバーや通風孔のみを持たないようにしてください。
- ・特に製品の端子カバーは、極端に大きな力が加わるような持ち方はしないでください。落下・破損のおそれがあります。

1.3 保管

1.3.1 一時保管

表 1.1 に示す環境で保管してください。

表 1.1 保管，輸送時の環境

項 目	仕 様	
保存温度（注 1）	-30 ~ +60[]	急激な温度変化による結露や氷結が生じない場所
相対湿度	5 ~ 85[%RH]（注 2）	
雰囲気	塵埃，直射日光，腐食性ガス，可燃性ガス，オイルミスト，蒸気，水滴，振動がないこと。塩分があまり含まれないこと（年間 0.01 mg/cm ² 以下）。	
気圧	86 ~ 106[kPa]（保管時）	
	70 ~ 106[kPa]（輸送時）	

（注 1）保存温度は，輸送程度の比較的短時間を想定した値を示します。

（注 2）湿度が仕様値を満足していても，温度変化が大きな場所では結露や氷結が生じます。このような場所は避けてください。

一時保管の注意事項

- （1）床に直接放置しないでください。
- （2）雰囲気が表 1.1 の保管環境を満たしていない場合は，ビニールシートなどで密閉包装のうえ保管してください。
- （3）湿気が影響する恐れがあるときは，内部に乾燥剤（シリカゲルなど）を入れてからビニールシートなどで密閉包装してください。

1.3.2 長期保管

購入後，長期間使用しないときは，以下の状態で保管してください。

- （1）一時保管の環境を満足してください。
- （2）湿気などの侵入防止のために包装は厳重にしてください。包装内に乾燥剤（シリカゲルなど）を封入し，包装内部の相対湿度を 70[%RH] 以下となるようにしてください。
- （3）湿気や塵埃にさらされる環境に放置される場合（建設工事現場などに設置される「装置」や「制御盤」などに取り付けられている場合）は，いったん取り外して表 1.1 に示す環境で保管してください。

第2章 据付けと配線

2.1 使用環境

ユニットは、表 2.1 の条件を満たす使用環境に据え付けてください。

表 2.1 使用環境

項 目	仕 様	
形式	SSU 50TA-NSA	SSU 100TA-NSA
場所	屋内	
周囲温度	-20 ~ +40[℃]	
周囲湿度	5 ~ 85[%RH] (結露しないこと)	
雰囲気	塵埃, 直射日光, 腐食性ガス, 可燃性ガス, オイルミスト, 蒸気, 水滴がないこと。(注 1) 塩分があまり含まれていないこと (年間 0.01 mg/cm ² 以下), 急激な温度変化による結露が生じないこと。	
標高	1,000[m]以下	
気圧	86 ~ 106[kPa]	
振動	0.7[G]以下	0.4[G]以下

(注 1)糸屑や湿り気を帯びた塵埃など通風孔の目詰まりが生じる環境に据え付けしないでください。

このような環境で使う場合, 糸屑などが入らない制御盤内に据え付けてください。

2.2 据付け

(1)据付け面

ユニット表面温度が約 90℃まで上昇することがありますので、据付け面はこの温度上昇に十分耐えられるところにしてください。

⚠ 危険
金属などの不燃物に据え付けてください。 火災のおそれあり

(2)周囲のスペース

図 2.1 に示す据付けスペースを確保してください。制御盤などに収納する場合、周囲温度が上昇しやすくなりますので盤内換気に十分配慮してください。放熱の悪い小さな密閉箱に収納しないでください。

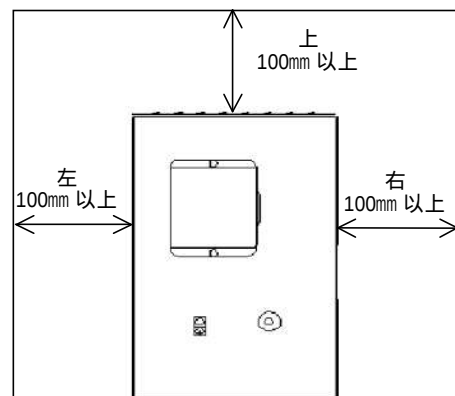


図 2.1 据付け方向・周囲のスペース

(3)据付け方向

取付穴が下にくるように、据付け面に対して垂直にねじまたはボルト4本で、確実に取り付けてください。

注意 上、下逆あるいは垂直に据え付けないでください。ユニットの放熱効率が低下し、過熱によりユニットが破損します。

2.3 配線

ユニットの入力ケーブルをモータ端子に接続してください。

入力ケーブルの末端には、圧着端子（ねじサイズ M5）が付いています。モータ端子のねじサイズと適合しない場合は、別途中継端子台などを準備して接続してください。この場合のモータ端子台と中継端子台間の中継線はできるだけ短く配線してください。ユニットからモータまでの配線距離が長い場合、サージ電圧が 1000V を超える場合があります。

なお、接続および配線作業時は、必ずインバータの電源を遮断し 30kW 以下は 5 分以上、37kW 以上は 10 分以上経過後、インバータのタッチパネルが消灯していることを確認し、テスターなどを使用しインバータの主回路端子 P(+)-N(-)間の直流中間回路電圧が安全な電圧(DC25V 以下)に下がっていることを確認してから行ってください。

2.3.1 端子配置図とねじ仕様

ユニットのねじ仕様と端子配置図を以下に示します。

(1)入力ケーブル

表 2.2 入力ケーブル

ユニット形式	ねじサイズ
SSU 50TA-NSA	M5
SSU 100TA-NSA	

(2)接地用端子

表 2.3 接地用端子

ユニット形式	ねじサイズ	締付けトルク (N・m)
SSU 50TA-NSA	M4	1.8
SSU 100TA-NSA		

(3)端子配置図

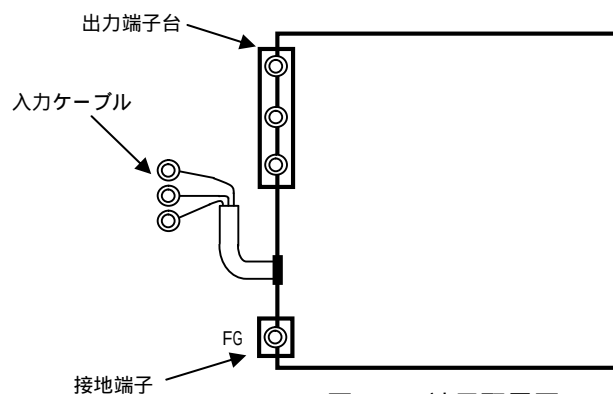


図 2.2 端子配置図

配線上の注意

次の項目に注意して、配線してください。

- (1)入力ケーブルは必ずモータ端子に接続してください。(誤って他の端子に接続して通電するとユニットが破損します。)
- (2)接地線は、感電や火災などの災害防止のため必ず配線してください。
- (3)入力ケーブルの末端には、圧着端子(ねじサイズ M5)が付いています。モータ端子のねじサイズと適合しない場合は、別途中継端子台などを準備して接続してください。この場合のモータ端子台と中継端子台間の中継線はできるだけ短く配線してください。ユニットからモータまでの配線距離が長い場合、サージ電圧が 1000V を超える場合があります。

⚠ 危険	
端子は、規定の締付けトルクで締めてください。	
火災のおそれあり	
- ユニットを接続するモータの定格電圧系列に従い C 種または D 種の接地工事を行ってください。 - ユニット接地用端子 (FG) の接地線は必ず接地してください。	
感電、火災のおそれあり	
- 配線作業は、資格のある専門家が行ってください。 - 配線作業は、必ずインバータの電源を遮断し 30kW 以下は 5 分以上、37kW 以上は 10 分以上経過後、インバータのタッチパネルが消灯していることを確認し、テスターなどを使用しインバータの主回路端子 P(+)-N(-)間の直流中間回路電圧が安全な電圧(DC25V 以下)に下がっていることを確認してから行ってください。	
感電のおそれあり	
必ずユニットを設置してから配線してください。	
感電、けがのおそれあり	
- ユニットの入力電源の相数・定格電圧と接続するモータの定格電圧・相数が一致していることを確認してください。 - ユニット出力端子(, ,)は使用しませんので、何も接続しないでください。	
感電、火災のおそれあり	

2.3.2 入力ケーブル、出力端子、接地端子の機能説明

入力ケーブル・出力端子・接地端子の機能説明を表 2.4 に示します。

表 2.4 入力ケーブル・出力端子・接地端子の機能説明

端子名称	端子記号	仕様
入力ケーブル	-	3 芯線, SYM 0.75 mm ² , 黒色, 1.5m, 圧着端子付き (M5) モータの各相(U, V, W)に接続してください。接続する相の指定はありません。
出力端子台	, ,	使用しません。(接続しないでください) 3 極端子台 (M4) 注意: 通電時, 出力端子 , , には高電圧が出力されています。 ・感電のおそれがありますので, 絶対に触れないでください。 ・破損のおそれがありますので, 短絡や地絡は絶対にしないでください。 ・端子台カバーを外したままで使用しないで下さい。
接地端子	FG	ユニットの接地端子です。 1 極端子台 (M4)

配線手順

以下の順序で配線してください。

接地端子 (FG)
入力ケーブル

接地端子 (FG)

接地端子は安全上、必ず接地してください。感電や火災などの災害防止のために電気設備技術基準では、電気機器の金属製フレームの接地工事が義務づけられています。

- 1) 電気設備技術基準に従って、ユニットを接続するモータの定格電圧系列に従い 200V 系列は D 種接地工事、400V 系列は C 種接地工事を施した接地極に接続します。
- 2) 接地用の電線は太く表面積の広い電線を可能な限り短く接続します。

表 2.5 電気設備技術基準による機器の接地

ユニットを接続する モータの定格電圧・相数	接地工事の種類	接地抵抗
3 相 200V	D 種接地工事	100Ω 以下
3 相 400V	C 種接地工事	10Ω 以下

入力ケーブル

モータの各相(U, V, W)に接続してください。接続する相の指定はありません。

2.3.3 スターデルタ始動仕様のモータに使用する場合

スターデルタ始動仕様のモータにおいて、スターデルタ始動を制御する制御盤とモータ間の配線を 6 線で行なう場合、本製品を 2 台使用してモータの全ての端子でサージ電圧対策を行ってください。1 台のみの接続では十分なサージ抑制効果を得られない恐れがあります。

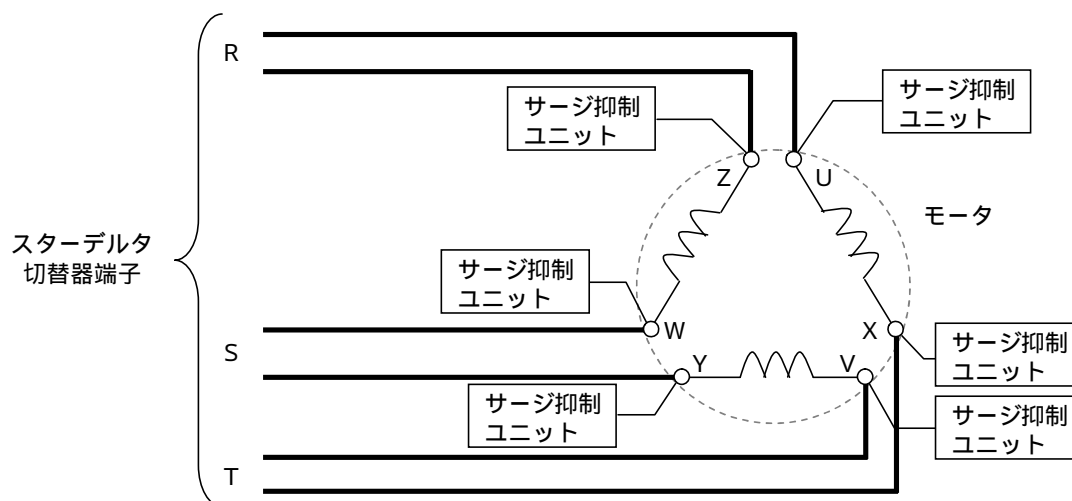


図 2.3 Y - Δ 接続時の接続方法



・モータとユニットの間には進相コンデンサやサージアブソーバを接続しないでください。

第3章 運転

3.1 試運転

3.1.1 電源投入前の確認

電源を投入する前に，次の項目を確認してください。

(1)入力ケーブルおよび接地端子（FG）は正しく接続されていますか。（図 3.1 参照）

⚠ 危険
・ 出力端子 ， ， は使用しませんので，何も接続しないでください。 通電時，出力端子 ， ， には高電圧が出力されています。 ・ 感電のおそれがありますので，絶対に触れないでください。 ・ 破損のおそれがありますので，短絡や地絡は絶対にしないでください。 ・ 端子台カバーを外したままで使用しないで下さい。 ・ ユニットの接地端子(FG)を確実に接地してください。 感電のおそれあり

(2)入力ケーブル間が短絡・地絡状態になっていませんか。

(3)端子またはねじなどが緩んでいませんか。

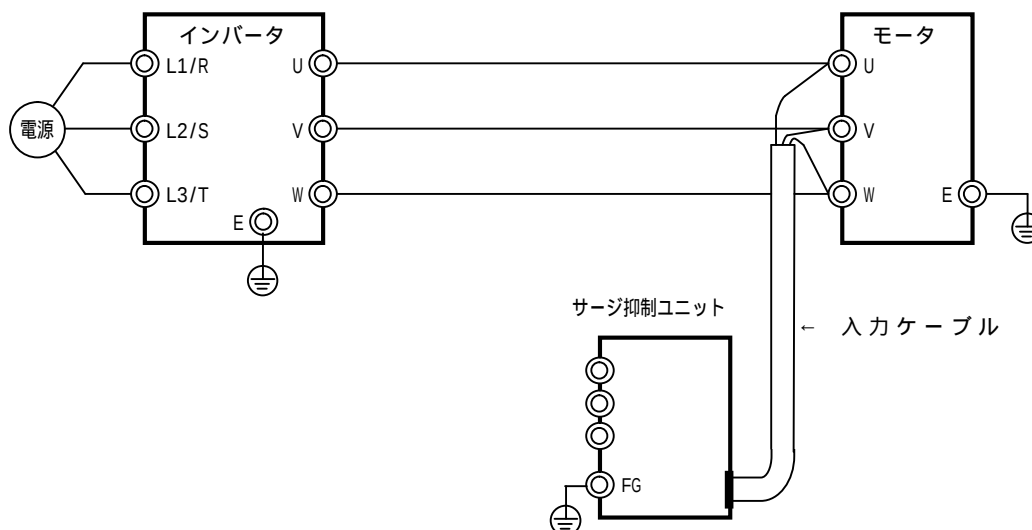


図 3.1 主回路端子の接続図

3.1.2 電源投入およびその後の確認

⚠ 危険
・ 必ず出力端子台の端子カバーを取り付けてから電源を投入してください。通電中はカバーを外さないでください。 ・ 濡れた手で操作しないでください。 感電のおそれあり

電源を投入し，次の項目を確認してください。

- ・ 異音・異臭はないか

第4章 故障かな？と思ったら...

4.1 トラブルシューティングの前に

以下の手順に従ってトラブルを解決してください。

なお，以下の手順でトラブルが解決しない場合は，弊社までご連絡ください。

(1)正しく配線されていますか。

第2章「2.3.2 入力ケーブル，出力端子，接地端子の機能説明」を参照してください。

4.1.1 ユニットの過熱

[1]ユニットの異常過熱

原因	チェックと対策
モータ配線長がユニット仕様の長さより長い	モータ配線長を確認する →SSU 50TA-NSA(50m 仕様)の場合は，SSU 100TA-NSA(100m 仕様)への交換を検討する

[2]ユニットの異臭

原因	チェックと対策
ユニット周辺・据付部に可燃物がある	ユニット周辺・据付部を確認する →据付場所を再検討する
ユニットの通風孔が塞がれている	ユニットの通風孔を確認する →通風孔の異物を除去し，2.2(2)の周囲のスペースを確保する。

第5章 保守点検

故障を未然に防いで長期間安定した運転を継続するために、日常点検と定期点検は欠かせない作業です。点検にあたっては、この章の項目に従って作業を行ってください。

⚠ 危険	
・点検はインバータの電源を遮断して 30kW 以下は 5 分以上、37kW 以上は 10 分以上経過後、インバータのタッチパネルが消灯していることを確認し、テスターなどを使用しインバータの主回路端子 P(+)-N(-)間の直流中間回路電圧が安全な電圧(DC25V 以下)に下がっていることを確認してから行ってください。	
感電のおそれあり	
・指定された人以外は、保守点検、部品交換をしないでください。	
・作業前に金属物(時計、指輪)などを外してください。	
・絶縁工具を使用してください。	
・改造は絶対しないでください。	
感電、けがのおそれあり	

5.1 日常点検

運転中・通電中に外部から運転状態の異常の有無を目視点検します。

次の点検を行ってください。

- ・周囲環境は、第2章「2.1 使用環境」を満足しているか。
- ・異常音、異常振動、異臭などはないか。
- ・過熱の跡や変色などの異常はないか。

5.2 定期点検

定期点検は表 5.1 の定期点検リストの項目に従って行ってください。点検作業は運転停止後、電源を遮断してから、外観より判断してください。

表 5.1 定期点検リスト

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準
周囲環境	1) 周囲温度、湿度、振動、雰囲気(塵埃、ガス、オイルミスト、水滴などの有無)を確認する。	1) 目視および計器で測定する。	1) 標準仕様書を満足すること。
	2) 周囲に工具などの異物や危険物が放置されていないか。	2) 目視による。	2) 放置されていないこと。

表 5.1 定期点検リスト（続き）

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準
カバーなどの構造部品	1)異常音,異常振動はないか。 2)ボルト類(締付け部)に緩みはないか。 3)変形・破損はないか。 4)過熱による変色はないか。 5)汚損や塵埃の付着はないか。	1)目視,聴覚による。 2)増締めする。 3), 4), 5) 目視による。	1), 2), 3), 4), 5) 異常がないこと。
出力端子台	破損していないか。	目視による。	異常がないこと。
通風孔	通風孔の目詰まり,異物の付着はないか。	目視による。	異常がないこと。
入力ケーブル	断線などはないか。	目視による。	異常がないこと。

汚れたときは,化学的に中性の掃除布などで拭き取ってください。埃は電気掃除機で吸い取ってください。

5.3 絶縁試験

工場出荷時に絶縁試験をしていますので,メガーテストは極力行わないでください。

やむをえず主回路のメガーテストを行う場合は,次の方法で行ってください。テスト方法を間違えると,製品を破損することがありますので十分注意してください。

耐圧試験もメガーテストと同様に試験方法を間違えると製品を破損します。耐圧試験が必要なときは,弊社にご相談ください。

(1)ユニットのメガーテスト

- 1) DC500V 系メガーを使用し,必ず主電源を遮断した状態で測定してください。
- 2) モータとの配線は切離してください。
- 3) 入力ケーブルは,図 5.1 のようにコモン線で接続してください。
- 4) メガーテストは入力ケーブルコモン線と大地 (FG) 間だけにしてください。
- 5) メガーが 1[MΩ]以上を表示すれば正常です。(ユニット単体で測定した値です。)

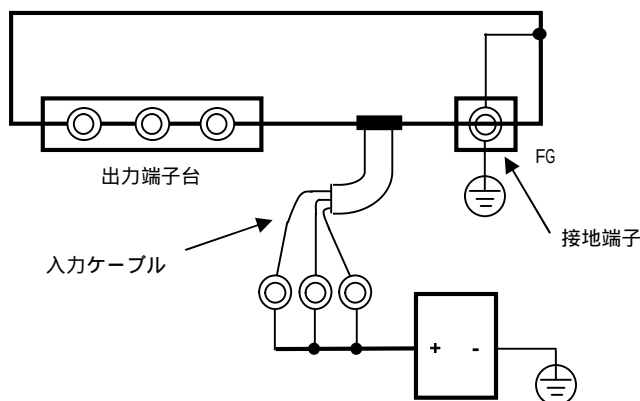


図 5.1 メガーテスト

5.4 製品のお問合せと保証

(1)お問合せ時のお願い

製品の故障，破損および不審点など，お問合せが必要なときは，次の項目を弊社までご連絡ください。

- 1) ユニット形式（第1章 1.1 節参照）
- 2) SER. No.（製造番号）（第1章 1.1 節参照）
- 3) ご購入時期
- 4) お問合せ内容（例えば破損箇所と破損程度，不審点，故障の現象・状況など）

(2)製品保証

製品の保証期間は「お買上げ後1年」が経過するまでの期間となります。ただし，保証期間内であつても次の場合は有償修理になります。

- 1) 使用上の誤りおよび不適切な修理・改造が原因のとき。
- 2) 標準仕様値を超えた範囲で使用したとき。
- 3) お買上げ後の落下および輸送途中での損傷・破損が原因のとき。
- 4) 地震，火災，風水害，落雷，異常電圧，その他の天災および第2次災害が原因のとき。

第 6 章 仕様

6.1 標準仕様

項 目		仕 様	
形式		SSU 50TA-NSA	SSU 100TA-NSA
適用モータ配線長		50[m]以下	100[m]以下
適用インバータ	電源電圧	3 相または 1 相 200V 系列：AC200～240[V] 3 相 400V 系列：AC380～480[V] 電圧許容変動：-15[%]～+10[%]	
	インバータ容量	3 相または 1 相 200V 系列：75[kW]以下 3 相 400V 系列：75[kW]以下 90[kW]以上は個別対応となりますのでお問い合わせください。	
	出力周波数範囲	0.1～400[Hz]	
	キャリア周波数	15[kHz]以下	
保護構造		IP20	
使用場所		屋内 塵埃，直射日光，腐食性ガス，可燃性ガス，オイルミスト，蒸気，水滴がないこと。塩分があまり含まれていないこと。（年間 0.01mg/cm ² 以下） 急激な温度変化による結露が生じないこと。	
周囲温度		-20～+40[℃]	
周囲湿度		85[%RH]以下（結露のないこと）	
標高		1000[m]以下	
振動		0.7[G]以下	0.4[G]以下
保存周囲温度		-30～+60[℃]	
保存周囲湿度		85[%RH]以下（結露のないこと）	
外形寸法		20，21 ページ参照	
環境対応		RoHS 指令対応	
質量		4.0[kg]	6.5[kg]
据付け方法		水平据付けとしてください。（上下逆あるいは垂直に据付けしないでください。） ユニット内部の熱を，自然空冷方式により放熱させていますので，上下および側面の通気孔を塞ぐような据付け方はしないで下さい。通風孔のある面は，下図に示す据付けスペースを確保してください。	

6.2 電氣的仕様

項 目	仕 様
サージ電圧 モータ端子間のピーク電圧値 (U-V間 V-W間 ,W-U間)	1000[V]以下 【条件】 ・インバータ入力電圧 AC480[V] ・モータ：富士電機 4極標準モータ ・インバータキャリア周波数：15[kHz] ・モータ配線長 SSU 50TA-NSA の場合：50[m] SSU 100TA-NSA の場合：100[m] ・配線種類（モータ配線） IV，HIV，架橋ポリエチレン絶縁電線
絶縁耐圧	AC2500[V]，1[min] ・入力端子一括 接地端子(FG)間 ・入力端子の各相間
絶縁抵抗	1[MΩ]以上(DC500V メガー) ・入力端子一括 接地端子(FG)間
漏洩電流	10[mA]以下

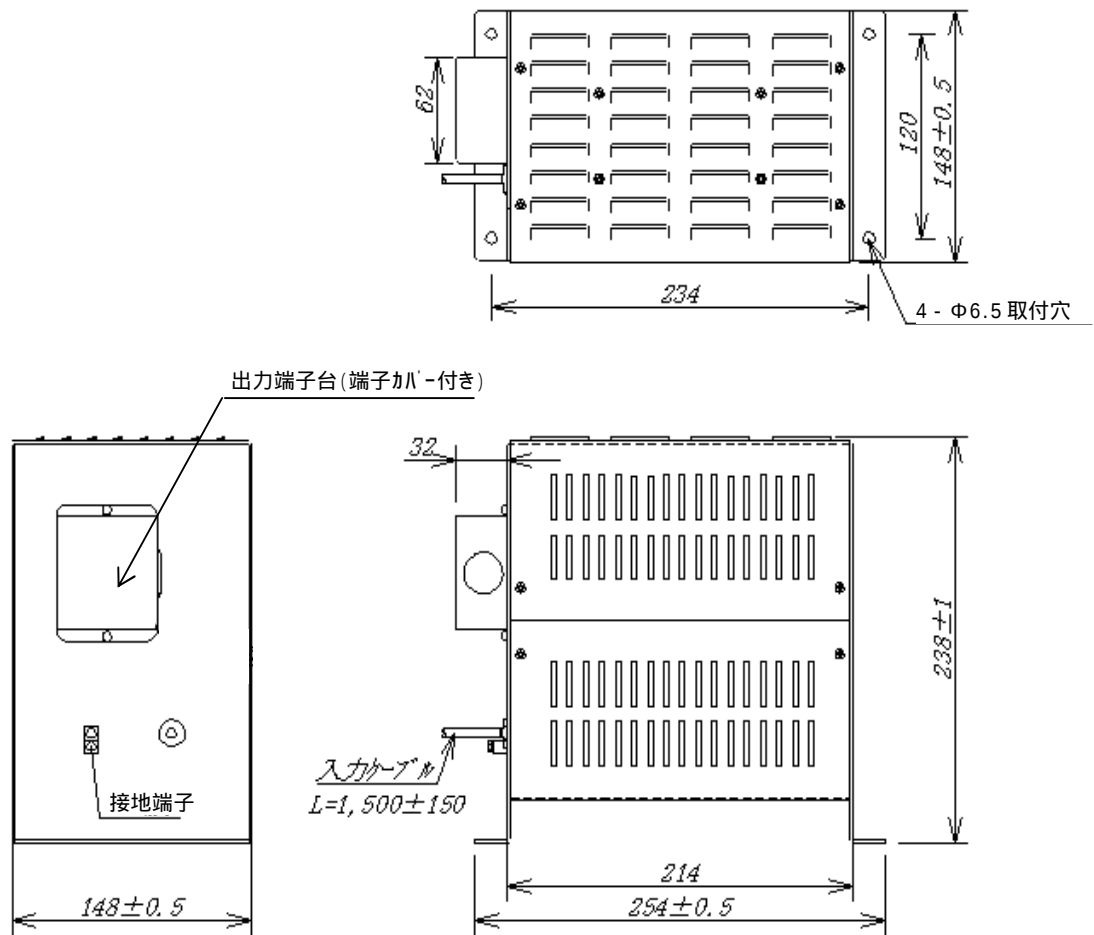
6.3 端子仕様

6.3.1 端子機能

項 目	仕 様
入力ケーブル	3 芯線，SYM 0.75 mm ² ，黒色，1.5m，圧着端子付き（M5） モータの各相(U,V,W)に接続してください。接続する相の指定はありません。
出力端子台	3 極端子台（M4） 端子名称： ， ， 使用しませんので何も接続しないでください。 注意：通電時，出力端子 ， ， には高電圧が出力されています。 ・感電のおそれがありますので，絶対に触れないでください。 ・破損のおそれがありますので，短絡や地絡は絶対にしないでください。 ・端子台カバーを外したままで使用しないで下さい。
接地端子	1 極端子 端子名称：FG
内部構成	出力端子台 入力ケーブル FG 接地端子

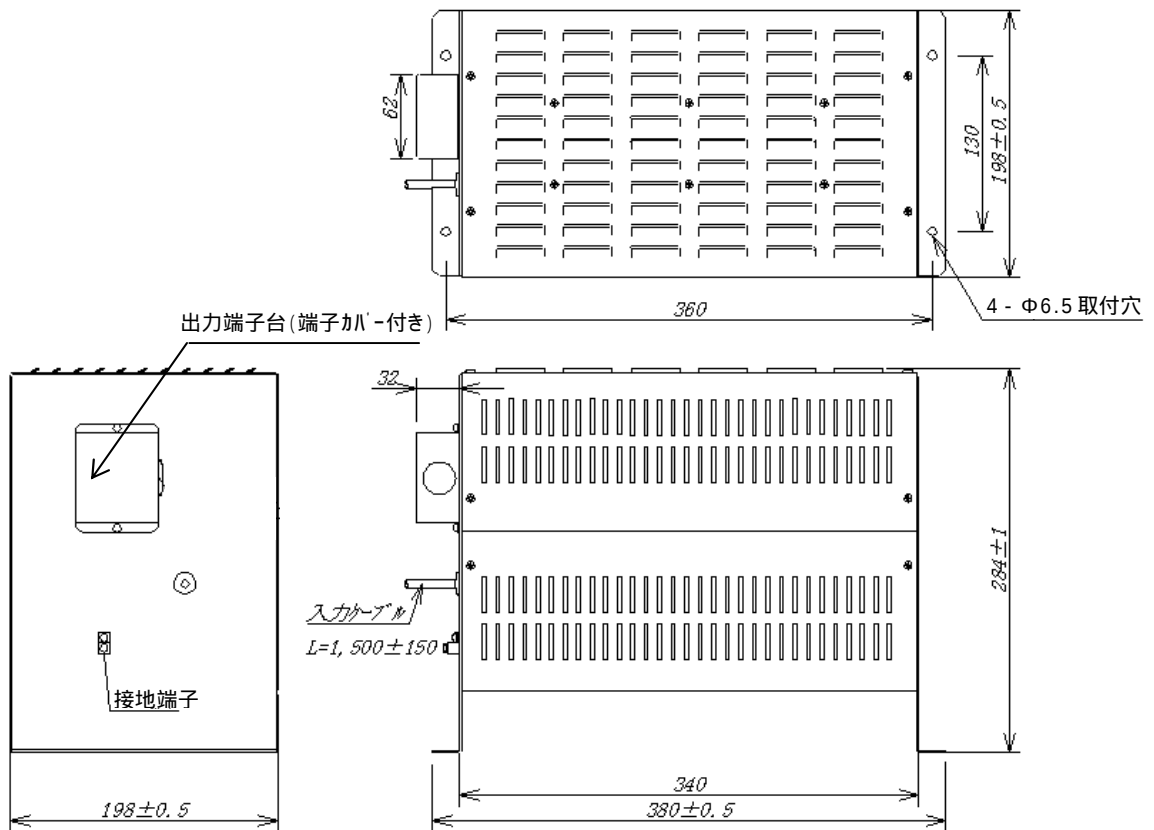
外形寸法図

(単位 : mm)



【SSU 50TA-NSA (50m 仕様)】

(単位 : mm)



【SSU 100TA-NSA (100m 仕様)】

MEMO

サージ抑制ユニット

SSU 50TA-NSA : 50m 仕様

SSU 100TA-NSA : 100m 仕様

取扱説明書

初 版 2010 年 11 月 沖電線株式会社

- この取扱説明書の一部または全部を無断で複製・転載することはお断りします。
- この説明書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審の点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、ご連絡ください。
- 運用した結果の影響については、上項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。